

世界の三大
文學者

シルレルと
ゲーテ
ドイツのワ
イマルにあ
る記念碑。

啓蒙文學の
唱道

文學は各國の國語が出来てから著しく發達し、國民文學として見
るべきものが續出するやうになつた。イングラントのシェイクスピア
はドイツのゲーテ・シルレル
Goethe Schiller
と共に、世界の三大文豪とし
て知られてゐる。その他イギ
リスのミルトン・ゴルドスミ
Milton Goldsmith
ス・フランスのモリエール・ラ
Molière
シーヌ・ドイツのレッシングな
Lessing
ども皆非凡な文學者で、それぞれ大作を出してゐる。

●啓蒙文學 十七世紀以來科學思想の發展は、精神界にも多大な
影響を與へ、人間の理性を以て舊來の因襲や迷信を斥け、その非理を
破りあらゆる問題を解決して、知識を要求する社會に提示し、その蒙
を啓かうとする新思想が興つた。これを啓蒙思想といふ。そしてこの



建築及び彫
刻
モンテス
キュー

ヴォルテ
ール
モンテス
キュー
ルソー



思想から啓蒙文學が出たが、フランス語と
その文學とがこの運動の機關として用ひ
られたので、フランスにこの派の大家が輩
出した。即ちヴォルテールは輕妙な筆で、貴族
Voltaire
僧侶の專横や教會の腐敗を攻撃して革新
の氣運を盛ならしめ、モンテスキューは行政・立法・司法の三大權を分立
Montesquieu
する必要を唱へて、君主權の打破に努めた。次にルソーは極端な自由
Lousseau
平等論者で、當時の不自由・不平等な社會を覆すべきを説き、いづれも
人心に多大の感動を與へた。



●美術 ミケランジェロの時代に極盛期
に達した建築・彫刻は、十七世紀から十八世
紀にかけては殆ど進歩しなかつた。これに
反して、繪畫にはイスパニヤにヴァスケス・
Velasquez

蒸氣機關
紡績機
種痘法

は氣温計を、フランクリン (Franklin) は避雷針を、ワット (Watt) は蒸氣機關を、アークライイト (Arkwright) は紡績機を、ジェンナー (Jenner) は種痘法を發明

近古史摘要及び年表

近古期は一五一七年ルーテルがドイツ國で宗教改革の端緒を開いてから、一七八九年フランス革命まで、二百七十餘年間を包み、我が後柏原天皇の御代の中頃から、光格天皇の御代の初まで、支那では明の武宗の末頃から、清の高宗の末年に及んでゐる。この期の初にドイツで宗教改革が唱へられてから、その影響は諸方に波及し、ヨーロッパに到る所に新舊兩教派の紛争を惹起し、遂に三十年戦役で局を結んだ。その結果、ドイツは益々疲弊して帝國分裂の状態となり、イスパニヤも亦舊教擁護に敗れてその勢力を墜した。これに反してフランスはルイ十四世の努力によつて一時覇を唱へ、その勢威は將に全歐を風靡しようとした。

けれどもフレデリック大王がプロシヤに出で、ペートル大帝及びカザリン二世が前後してロシアに君臨し、銳意國運の發展を圖つたので、プロシヤ・ロシアの國運は俄かに興り、遂にイギリス・フランスと對峙することとなつた。

次にイギリスの國基は、兩度の革命を経た後に却つて鞏固となり、國運は愈々隆盛に向つた。そしてアメリカの植民地十三州は合衆國を組織して、イギリスから分離獨立したので、民主的憲法が制定せられ、國力が益々充實してヨーロッパ大陸の諸國と比肩して、毫も遜色のないやうになつた。

文藝・科學の研究は本期に入つて益々盛となり、大家・碩學が前後して輩出し、各名什傑作を遺した。そして植民貿易事業も亦非常に發展し、ポルトガル及びイスパニヤの兩國がまづその利を占め、オランダがこれに次ぎ、フランスがその次に發達し、最後にイギリスはオランダ・フランス兩國の海上權を奪取して、アメリカ・印度及びオーストラリア方面に活躍し、遂に世界に於ける海王國たるの素地を作ることとなつた。

年代		重要事項	國史東洋史との對照		
皇紀	西紀		日本	支那	
二七	一五七	ルーテルが宗教改革を唱へた	後柏原	武明宗	後九年モゴル帝國が印度に建設せられた
三〇〇	一五〇	耶穌會の組織が成つた	後奈良	世宗	後三年ポルトガル人が後二年前サウエルゴアに來着
三二五	一五五	アウグスブルグの宗教講和	後奈良	世宗	後六年天主教僧京師に布教を興つた
三四八	一五八	イングランドが無敵艦隊を撃破した	後陽成	神宗	後四年秀吉が朝鮮を征した。支那に來着
三五八	一五八	ナント勅令の發布	後陽成	神宗	前二年オランダ人が東洋に來た
三六〇	一六〇	イングランド東印度商會の創立	後陽成	神宗	關原の戰
二四三	一七三	イギリスが合衆國の獨立を認めた(ヴェルサイユ和議)	光格	高宗	清三年暹羅が清に朝貢した
二四六	一七六	アメリカ合衆國の獨立宣言書の公布	後桃園	高宗	後四年鄭昭が暹羅王となつた
二七三	一七三	ユトレヒト(イスパニヤ)條約の締結(繼承役の終)	中御門	聖祖	後七年チベットが降つた
三六一	一七〇	プロシヤ王國の建設	東山	聖祖	翌年赤穂義士の復讐
三四八	一六八	イングランドの名譽革命	東山	聖祖	翌年ネルチンスク條約の締結
三〇八	一六八	ウエストファリア條約の締結(三十年戦役の終)	後光明	世清祖	前十年島原の亂。前年李自成が清に降つた

近古史綱要 第五卷 年表

（以下は非常に淡く印刷された年表の表紙と目録と思われる内容）

して、或は工業界の革新を促し、或は人類の幸福を増すやうになつた。

第四篇 近世史

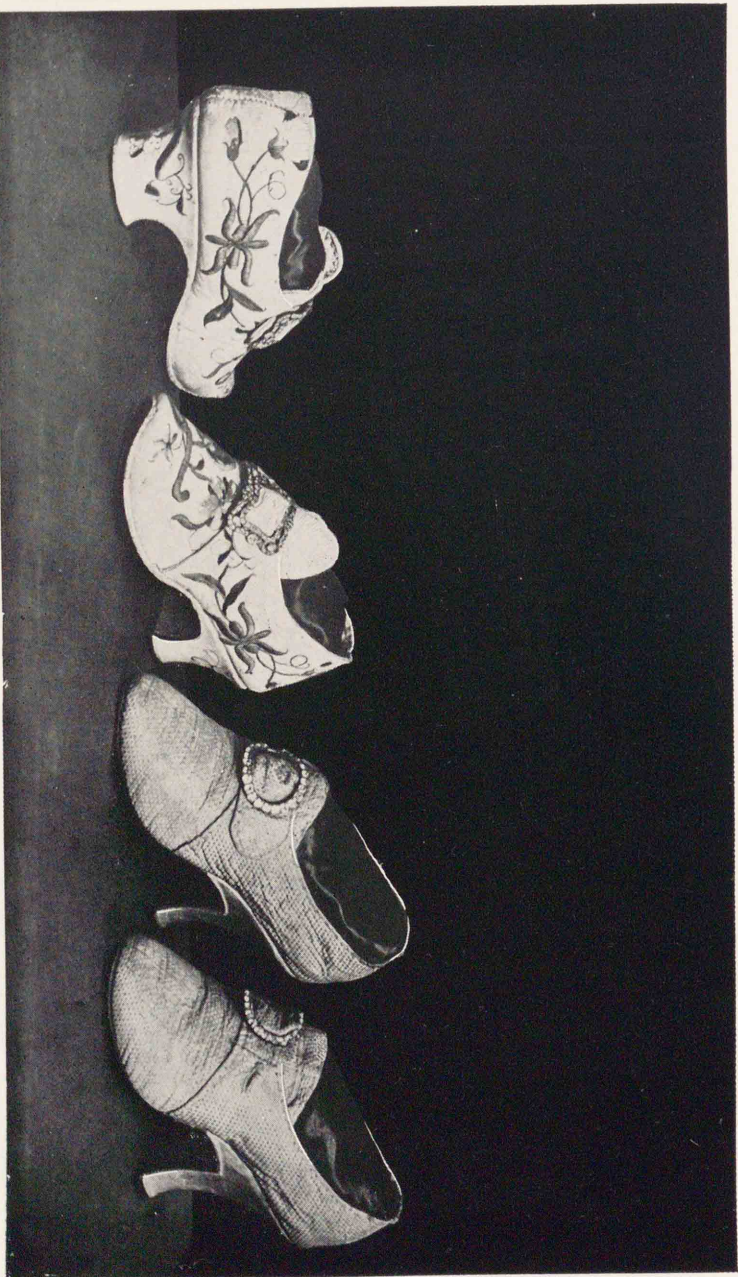
第一章 フランス大革命

● 革命の原因 フランスではルイ十四世以来、極端な専制政治行はれて人民の権利全く無視され、貴族僧侶は土地の大半を有しながら免税で、常に驕奢を極めてゐた。重い租税を負担して悲惨な境地に陥つてゐた農民や職工などは、このやうな有様を見て不平に堪へなかつた。その上モンテスキューやヴォルテールやルソーなどの啓蒙文學者が、盛に君主の専制政治を非難し、人權の自由平等を唱へたので、一部の民衆は、アメリカ合衆國が獨立して共和政治を立てた例に倣つて、遂に奮起して大革命を起すやうになつた。

● 革命の發端

このやうな時に王位を踐んだルイ十六世は、前代

ルイ十六世
の失政



(裏面の説明を見よ)

（蔵館物博—ニルグ—リーバ）靴の夫婦の代時世六十五イ及び世五十一イ

1
光格天皇の寛政元年
高宗の時

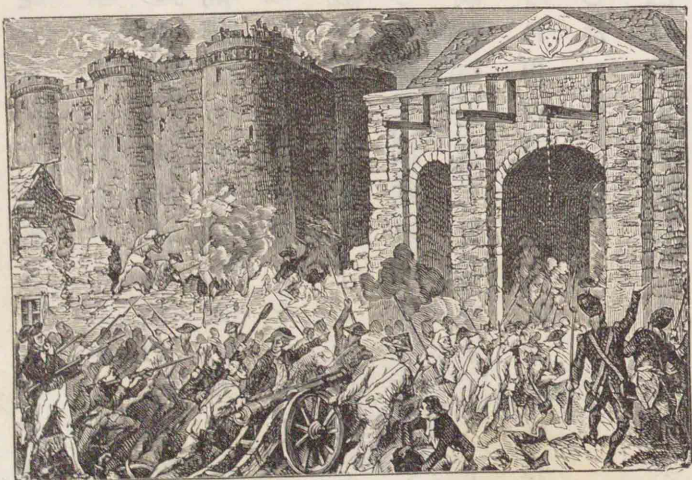
ルイ十六世

バスチーユ
牢獄破壊の
光景

革命の發端



の榮華な生活と、度々の外征とで紊亂した財政を整理しようとして、一七八九年に久し振りで三部會をヴェルサイユの宮殿に召集した。ところが議論が沸騰したので、結局平民議員は貴族や僧侶から離れて、別に國民議會を作つて、憲法を制定するまでは解散しないことを誓つた。その後王は貴族や僧侶の請を容れて、武力で國民議會を抑へようとしたから、不平の暴民はバスチーユの牢獄を破つて、大革命の烽火を擧げた。これから暴



ルイ十五世及びルイ十六世時代の婦人の靴

ルイ十五世及びルイ十六世時代の風俗は頗る華奢に流れ、婦人の服装も亦華美を極めてゐた。随つて婦人の靴も絹製の優美なもので、踵は高く爪先は小さく、且表面に精巧な刺繡を施し、その中央部に寶玉類を以て裝飾を加へたものが多數であつた。ここに掲げたのはその代表的なものである。

人權の宣言

動が各所に起つたので、貴族や僧侶などの國外に避難するものが頗る多かつた。

王政の顛覆

その後議會は「人權の宣言」を發表し、政治の主權は人民にあること、すべての人民は自由同權であること、個人の身體と財産との安全は、共に保證せられるものであることなどを公にして、國民の自覺を促し、やがて立憲君主主義の新憲法を制定した。けれども國王の信賴してゐたミラボーが歿してから、議會の輿論は著しく共和に偏したので、國王は前途を憂ひ、竊かに王宮を脱してオーストリアに遁れようとしたが、途中で捕へられ、再び王宮に幽閉せられ、曩に國民議會で制定した新憲法を批准した。

國王の逃走及び幽閉

新憲法の批准

プロシヤ・オーストリア兩國の來援

この時、プロシヤ・オーストリアの兩國は革命思想の侵入を恐れ、兵を出してフランス王を援けようとした。議會では國王が兩國に援助を乞うたからであると思ひ、王を捕へて獄舎に禁錮し、軍隊を出して

フランス王の禁錮及びその死刑

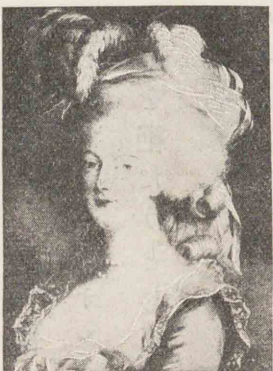
マリー・アントワネット

斷頭機

パリ、カレンナヴァン博物館

ロベスピエール

ロベスピエール等の誅戮



プロシヤ・オーストリアの聯合軍を破り、やがて王政を廢して共和政治を建て、國王を死刑に處した。

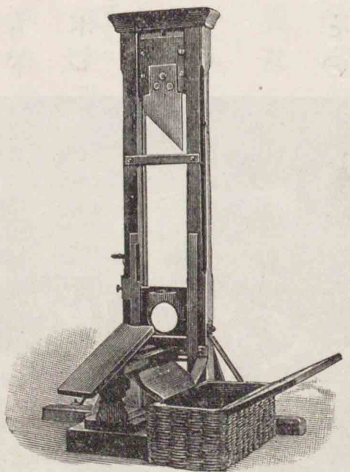
恐嚇時代

Kingdom of Terror

國王が殺された

ので、勤王黨は内亂を起し、諸外國は第一回の對フランス大同盟を作つて四方からフランスに攻めよせた。そこで過激黨

は前王の妃マリー・アントワネットを始め、多數の政敵を悉く斷頭機上で殺し、頗る残酷を極めたので、世人はこの時代を恐嚇時代と呼んだ。ところが間もなく、國民が奮起して最も暴威を逞しくした



新憲法の制定

ナポレオンのオーストリア征伐

恐嚇時代の牢獄内で刑戮者を點呼する光景

ヴェルサイユ博物館藏の繪畫に據る。

ナポレオンのエジプト遠征

Robespierre
ロベスピエール等を殺して、過激黨を倒した。

⑤ 都督政府
Directory 1795-1799

行政權を五人の都督に、立法權を上下兩院に

委ねて自ら解散した。新政府はオーストリア

を征伐する爲に三軍を出したが、そのうちド

イツに侵入した二軍は共に敗れ、獨りナポレ

オン^{Napoleon}・ボナパルトが率ゐて北イタリアに進出

した軍は、到る所に敵を破つてオーストリア

に入り、同國に地を割かせて講和した。

ついてナポレオンはイギリスと印度との

交通を絶たうとして、エジプトに渡つてその

地を占領したが、その海軍はイギリスのネル

ソン提督にアブーキル灣で破られた。
^{Nelson}



第二回對フランス大同盟

ナポレオンの實權掌握

ナポレオン一世

オーストリア軍をイタリアに破る

⑥ 執政政治

この頃イギリスが更に第二回^{五九}の對フランス大同盟を組織して、フランスに侵入したので、パリーの人心は頗る動搖した。ナポレオンはこの機に乗じ急に本國に歸り、武力を以て政府を倒し、新憲法を制定し、自ら第一執政^{The First Consul}となつて文武の實權を握つたので、共和政治の外形だけ存し、その實は帝政と異ならぬ有様となつた。

第二章 ナポレオン一世の偉業

① オーストリア征伐

ナポレオンはイギリスとオーストリアとの二國が、飽くまでフランスの新憲法を認めないのを怒り、自ら北イタリアに侵入^{ス。}してオーストリア軍を破り、別軍もドイツでこれに勝つたので、ライン左岸



イギリス・フランスの講和
ナポレオンの内治

ナポレオン一世の即位

第三回對フランス大同盟

ネルソン
トラファルガル沖の海戦

の地を割かせて和を講じた。翌年イギリスとも講和したので、ヨーロッパは一時小康を保つやうになつた。

⑤ ナポレオンの内治と即位
ナポレオンは深く意を内治に注ぎ、財政を整へ交通の便を開き、次にローマ舊教を再興し教育を奨め、且有名な法典を編成して、國民の信望を一身に集めた。それ故國民大多數の投票で皇帝（一八〇四）の位に登り、ナポレオン一世と稱へ、翌年イタリヤの王位をも兼ねた。



⑥ イギリス侵入の失敗
この時、イギリスはヨーロッパ諸國を誘ひ、（一八〇五）第三回の對フランス大同盟を組織して、フランスに對抗した。そこでナポレオンはイギリスを伐たうと思つたが、フランス・イスパニヤの聯合艦隊がネルソンに（一八〇五）トラファルガル沖で破られて、海上權が全くイギリスに歸した。

ので、その企は失敗に終つた。

④ 神聖ローマ帝國の解散
そこでナポレオン一世はその兵を東に進め、オーストリアとロシアとの聯合軍を（一八〇五）アウステルリッツで破つて、オーストリアと講和した。ついで西南ドイツの十六州に（一八〇六）ライン同盟を作らせ、自らその保護者となつたので、皇帝フランシス二世は神聖ローマ帝國の解散を公にし、單にオーストリア皇帝フランシス一世と稱へた。

プロシヤ征伐
大陸封鎖令
チルジットの講和

⑤ ナポレオン一世の全盛
プロシヤは久しく中立を守つてゐたが、ナポレオンの侵略を憤り、ロシアと同盟して戦（一八〇六）を宣した。そこでナポレオン一世は長驅してベルリンを占領し、（一八〇六）大陸封鎖令を出して、大陸諸國のイギリスと通商することを禁じた。ついで東プロシヤに進み、プロシヤ・ロシアの聯合軍を破つて、兩國の君主とチルジットに會し、別々に和を講じた。

ポルトガルの併合
イスパニヤの征服

一八一一年のヨーロッパ

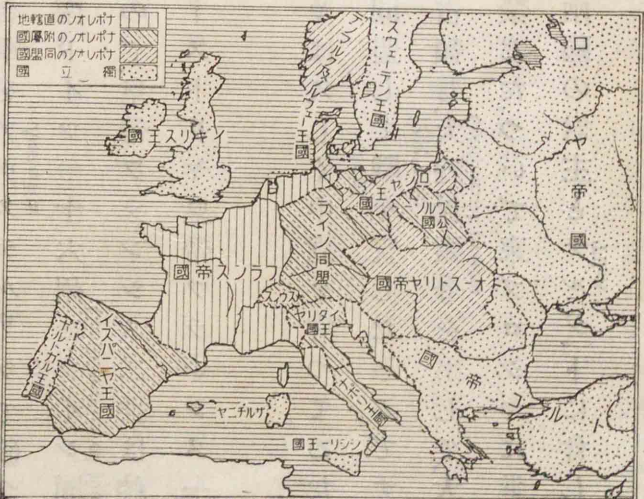
ナポレオン二世

その後ナポレオン一世はポルトガルが大陸封鎖令を守らないのを責めてその國を奪ひ、イスパニヤの國王父子を幽閉し、その王位を自分の兄に譲らせ、更に一八〇九オーストリアを伐つてこれに勝ち、同國の皇女Maria Louisaを娶つて皇后とし、家門の尊榮を圖つた。これから數年間にナポレオン一世の全盛時代である。



一八〇九
一八一〇
Maria Louisa
ナポレオン一世の衰運

その後ロシアは大陸封鎖令を破つたので、ナポレオン一世は大舉してその國を侵し、一



獻資軍のハットロン

(裏面の説明を見よ)



プロシヤ人の軍資獻納

プロシヤ王フレデリック・ウイリヤム三世は、ナポレオン一世がモスコウで大敗したといふ報知に接したので、竊かにベルリンを逃れてプレスラウに赴き、一八一三年二月三日「我が國に訴ふ」といふ壯烈な勅語を全國に宣布して、國民の奮起を促した。そこで愛國的の熱情は奮勃として各地に瀰漫し、義勇奉公の精神は凝結して、各、その本職を抛つて、我先にと軍旗の下に集り、一身を國家に捧げようとするに至つた。そして從軍することの出来ないものは、金銀・財寶は勿論、金銀製の什器類まで、あらゆる限りを盡し、惜氣もなくこれを獻納し、新婚の妻はその指輪まで、頑固な兒童は貯金箱を空しくし、婦女はその頭髮を斷ち、農夫は最後の馬までも提供して、奉公の赤誠を披瀝した。本圖はその光景を示したもので、各種各階級の民衆が陸續として來り、祖國の爲に各種の物資を携帶して、これを獻納してゐる有様が紙面に躍如として顯れ、眞に國民奮起の實際を十二分に發揮したものである。

モスコウの大敗

第四次對フランス大同盟

ライプチヒ戦勝記念碑

ナポレオン一世の退位

ナポレオン一世の再舉

ワテルローの戦

且^{一八三三}モスコウを占領したが、圖らずも

^{Moscow}

大火に遭つて大いに窮し、その上糧

食乏しく、爲に全軍敗退した。列國は

^{一八三三}

この報に接し、忽ち起つて第四次の

對フランス大同盟を作り、大いにナ

ポレオン一世の軍をライプチヒで

^{Leipzig}

破り、進んでフランスに攻入つて、パ

^{Paris}

リーを陥れた。そこでナポレオン一

世は帝位を辭してエルバ島に流され、ルイ十六世の弟ルイ十八世が

^{Elba}

フランスの帝位に登つた。

ナポレオン一世の再舉

ナポレオン一世は竊かにエルバ島を

^{Elba}

脱して本國に歸り、多數の兵隊を率ゐてパリに入り、再び皇帝とな

つた。ところが間もなくイギリスのウェリントンとワテルローで戦

^{Wellington}

^{Waterloo}



ウイーン
条約の内容



ウイーンに會して、大戦後に於ける國土の分合その他について協議した。しかし、意見が區々で容易にまとまらなかつたが、ナポレオンの再

舉によつて互に譲り合つて漸く終結した。即ちフランスはその侵地を返しオーストリアはネーデルランドを棄ててイタリヤの北部を得、ロシヤはポーランドの大部を取り、プロシヤはサクソニアの北半を得、そしてドイツの三十五州と四自由市とはドイツ聯邦を組織した。(5) イギリスはマルタ・ヘリゴランドの兩島と、戰爭中に占領した植民地とを得、スウェーデンはノルウェーを併せ、オランダはネーデルランドを併せ、スウイスは新に三州を加へて聯邦共和国を作り、イスパニヤ・ポルトガルなどの諸國は、各、その舊領を回復した。

ウイーン條約の内容

つて敗れ、終に列國の決議によつてセント・ヘレナの孤島に流され、ルイ十八世が再び位に復した。

ハ ウイーン列國會議 曩にイギリス・ロシヤ・プロシヤ・オーストリア及びフランスなどの諸國の代表者は、

つて敗れ、終に列國の決議によつてセント・ヘレナの孤島に流され、ルイ十八世が再び位に復した。

二五、六月

即ちフランスはその侵地

German Confederacy

第三章 神聖同盟 アメリカの諸國及び

ギリシヤの獨立

神聖同盟

一 神聖同盟

ウイーン會議の後、ロシヤ皇帝アレクサンドル一世はオーストリア皇帝及びプロシヤ國王と神聖同盟を組織し、キリスト

Holy Alliance

教の主義に基いて、各國の王侯を視ること兄弟の如く、キリスト教國民を視ること一家族の如く、相親しみ相愛して永久の平和を維持することを唱へた。ヨーロッパの諸國は概ねこれに加盟したが、中でもオーストリアの首相



メッテルニヒ

メッテルニヒはこの同盟を利用し、ドイツ・イスペイン・イタリアなどに起つた自由主義と民族統一との運動を抑へて、専制政治を行ふ方便にした。

⑤ アメリカ諸國の獨立

アメリカにあつたイスペインヤの植民地は、本國の植民政策に不満を抱き、ナポレオン時代にすでに獨立の狀を呈してゐたが、ウーイン會議後は終に獨立し、アルゼンチン・チリ・コロンビヤ・メキシコなどの共和國を作つた。ついでポルトガル領のブラジルも亦獨立した。メッテルニヒはかやうな運動は、神聖同盟の趣旨に背くものであると唱へ、武力でこれを抑

イスペインヤ
植民地の獨
立
南・北アメ
リカに於け
るイスペイン
ヤ・ポルト
ガル兩植民
地圖



モンロー



へようとしたが、イギリスとアメリカ合衆國大統領モンローとの反對に遭つて、果すことが出来なかつた。

⑥ ギリシヤの獨立

ギリシヤは人種と宗教とを異にしてゐるトルコの束縛を脱しようとして、叛旗を翻したが、トルコはエジプト太守の援を得て、殆どこれを平げようとした。ところが豫て野心を抱いてゐたロシアは、神聖同盟の主義に背き、イギリス・フランスの二國と同盟して、ギリシヤを援けた。そしてその聯合艦隊はトルコの艦隊をナヴァリノ灣に破り、トルコをしてギリシヤの獨立を認めさせた。

第四章 フランスの政變 ナポレオン三世

● 七月革命 フランスでは、ルイ十八世の後に即位した王弟チャール

チャールス
十世の暴政

神聖同盟の
破綻

七月革命の
影響

ルイフィリップ



ス國民の王となつた。これを七月革命といふ。
French People

King of

July Revolution

ベルギーの獨立

ルギー！ポーランド・ドイツ・イタリアなどの諸國に波及して、各所に自由獨立の運動を起させた。中でも多年オランダに對して不滿を抱

いてゐたベルギー人は、兵をブリュッセル市に擧げ、オランダ軍を撃破して、獨立を宣言した。列強はやがてロンドンに會してこれを認め、且永世局外中立國たることを保證した。

二月革命とその影響 フランス王ルイフィリップは初、善政を施したが、ギゾーを用ひて保守專制政治を行つてから、民心が全く離反し、

Guizot

第二共和政
治の成立

二月革命の
影響

ナポレオン
三世と皇后



遂に一八四八年二月になつて、パリに暴動が起つた。そこで王はイギリスに奔り、フランスは再び共和政體となつた。これを二月革命といふ。ついで新憲法が制定せられ、ナポレオン一世の甥ルイナポレオンが大統領に選ばれた。

二月革命の報知が傳はると、オーストリアではウィーンに暴動が起つて、メッテルニヒはイギリスに奔り、皇帝フェルデナンド一世は位を甥

のフランシスジョセフに譲つた。ホ

Francis Joseph

ンガリヤ、プロシヤ、イタリアなどでも相前後して革命運動が起つたが、いづれも成功するに至らなかつた。しかし、自由統一の思想は次第に濃厚となつて來たので、一般の民衆は多年の目的がやがて

ルイナ
レオンの人
心収攬

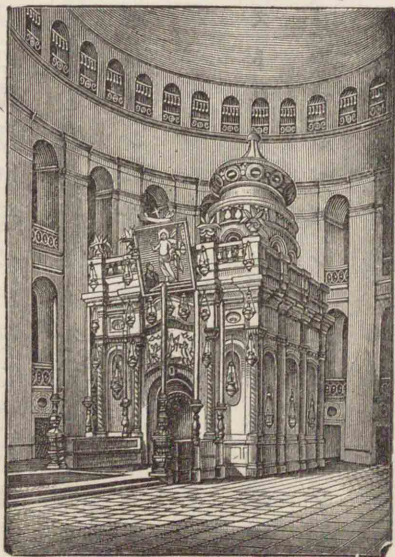
實現せられるであらうといふ期待をもつやうになつた。
④ ナポレオン三世の即位 大統領ルイナポレオンは豫てから帝位を希望してゐたので、就任以來自黨の人物を拔擢し、又人心の収攬に努めた。ついで兵力で反對黨を抑へ、國民多數の投票により帝政を再興して皇帝となり、ナポレオン三世と稱へた。

⑤ クリミヤ戦役

ナポレオン三世は帝政の基を固める爲、人望を得ようとして、イエルサレムに於ける靈地管理權をトルコ皇帝から得た。ところがロシア皇帝は大いにこれを憤り、トルコに對して抗議し、且トルコ領内のキリスト教徒の保護權を要求して拒絶せられたので、遂に戦を開いた。そこでナポレオン三世

聖墓の内部

得ようとして、イエルサレムに於ける靈地管理權をトルコ皇帝から得た。ところがロシア皇帝は大いにこれを憤り、トルコに對して抗議し、且トルコ領内のキリスト教徒の保護權を要求して拒絶せられたので、遂に戦を開いた。そこでナポレオン三世



セバ
スト
ポ
ール
要塞
の
陥
落
パ
リ
ー
の
和
約

はイギリスと同盟してトルコを援け、ロシア軍をクリミヤ半島の要塞セバストポールに圍み、更にサルヂニヤの援兵を得て、終にこれを陥れた。そしてパリ會議に於て和議が成立し、列國はトルコの獨立と領土の保全とを尊重し、黒海を中立として、ロシア南進の計畫を打破した。

第五章 イタリヤの統一

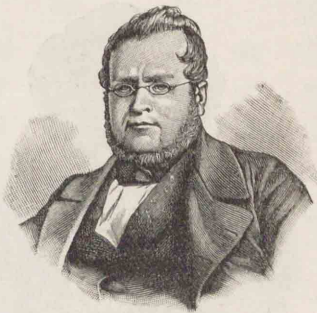
① イタリヤの國情とサルヂニヤ王の企圖

イタリヤは中古以來、久しく分裂してゐたので、國人は屢、統一の運動を起したが、成功しなかつた。サルヂニヤ王、ヴィクトル・エマヌエル二世はこれを遺憾として統一を企畫し、賢相カヴールを用ひ、内は政治を勵み、外はクリミ



ヴィクトル
エマヌエ
ル二世
サルヂニヤ
王の統一計
畫

カヴール



割譲させて講和した。

ヤ戦争に出兵してイギリス・フランスの歡心を求め、戦後更にナポレオン三世と約束して戦備を整へ、遂にオーストリアに宣戦した。この役にサルヂニヤ王はナポレオン三世の援助を得て大いにオーストリア軍を破り、ロンバルヂヤを

中部諸小國の併合

◎イタリヤ王國の建設 サルヂニヤ王はカヴールと共に、中部イ

タリヤの諸小國を併合した後、法王領に入つてその大部を攻略した。

そして曩に義勇兵を率ゐ、シシリー島を征伐し

ナポリ王國の併合

て北上したガリバルヂの軍と力を協せ、ナポリ

ガリバルヂ

王國を滅し、ヴェニス及び法王領以外のイタリヤ

イタリヤ王國の建設

全土を統一した。そこで一八六一年にヴィクトル

エマニエル二世はイタリヤ國王の位に即き、つ

孝明天皇の文久元年



いて國都をフロレンスに遷した。

◎統一の大成 その後國王はプロシヤオーストリア

戦役に、プロシヤを援けてオ

ーストリアからヴェニスを取

り、又プロシヤフランス戦役

の時に、ローマを占領し、法王

領の殆ど全部を併せ、都をこ

こに遷し、統一を大成した。

一八五
Florence



統一の大成

イタリヤ統一圖

第六章 アメリカ合衆國の内亂と

メキシコの動亂

合衆國の版
圖擴張と南
北戰役圖

經濟上・社
會上の衝突
奴隸存廢問
題

● 版圖の膨脹

アメリカ合衆國は建國以來、國勢隆々として發展し、やがてフランスからルイジアナを、イスパニヤからフロリダを買収し、更にメキシコと戦つて領地を西方に擴め、遂に太平洋に達するやうになつた。

● 南北戰役

このやうに領土の膨脹するに随つて、工業を主とする北部と、農業を主とする南部との間に政治上の主張や、經濟上の利害を異にしてゐるが、更に社會上奴隸の存廢に關して、兩者の意見は遂に衝突した。偶、この時に奴隸廢止論者リンカーンが大統領に選舉せられたので、終に破裂して南北戰役となつた。



北軍の勝利

リンカーン

メキシコの
紛擾

ナポレオン
三世の干渉
合衆國の抗
議



國勢は再び隆盛に向つた。

● メキシコの動亂

メキシコ共和國は多年黨派の軋轢と、財政の窮乏とに苦しめられて、一時外債の償還を中止した。そこでイギリス、フランス及びイスパニヤの三國は各兵を出してこれに對抗し、遂に外債の支拂を約束させた。ナポレオン三世はこの機會にメキシコを征服し、共和政治を廢して帝政とした。しかし、間もなく合衆國の強硬な抗議に會つて、その兵を撤退したので、帝政は忽ち倒れ、ナポレオン三世の聲望は全く地に墜ちた。

初、南軍が優勢であつたが、後にグラント將

軍が北軍を指揮するやうになつてから形勢

は一變し、南軍の主力がリッチモンドに降つて、

戰爭は終つた。間もなくリンカーンは兇漢に

狙撃せられて瘞れたが、幸に南北が合一して、

第七章 ドイツの統一

○ウィリヤム一世の即位と軍備の擴張 ドイツはウィーン會議の決



ウィリヤム一世

議で聯邦を組織したが、プロシヤとオーストリアとは互に権力を争つてゐた。そこでプロシヤ國王ウィリヤム一世はビスマルクを宰相に、モルトケを參謀總長に拔擢して、議會の反對をも顧みないで、軍備の擴張を斷行した。



ビスマルク

○プロシヤオーストリア戰役 プロシヤは豫てオーストリアを聯邦外に放逐して、ドイツの統一を完成しようと思つてゐたので、曩にデンマルクから奪つたシュレスウヒホルスタインの處分て、オーストリアと衝突して、

Schleswig-Holstein

○プロシヤオーストリア戰役 プロシヤ

Austro-Prussian War 1866

終に宣戰した。

この役、プロシヤはイタリヤの援を得て、オーストリア軍を破つて

ブラーグの講和

ブラーグで講和した。その結果、オーストリア

モルトケ

はドイツ聯邦を退き、シュレスウヒホルスタインをプロシヤに、ヴェニスをイタリヤに與へた。

北ドイツ聯邦の組織



戰後プロシヤは北ドイツの小邦を併せ、又

スオ

つて自らその盟主となり、更に南ドイツの四王國とも秘密の同盟を結んだので、國勢が益々隆盛となつた。

戰役の諸因

○プロシヤフランス戰役 フランスはプロシヤの隆盛となつた

のを嫉み、ビスマルクはドイツを統一するには、フランスと戰爭することを必要であると思つてゐたので、兩國の關係は次第に切迫した。偶、イスパニヤ王位繼承問題で兩國の意見が衝突したので、終に戰

一八七〇、七月

セダンの敗戦

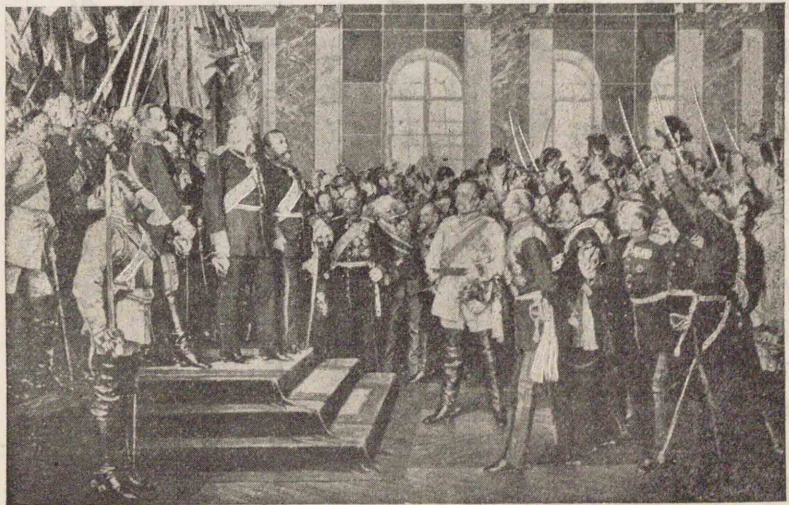
ウエルサイユ宮殿に於けるウイリヤム一世即位式舉行の光景

パリイの陥落と講和

ふやうになつた。

この役、プロシヤの大軍は整備した鐵道で速かにフランス國內に侵入し、ストラスブルグ・メツを圍み、更にナポレオン三世をセダンに破つてこれを捕虜にした。フランスは王政を廢して假共和政府を建て、専ら國防に努めたがその効なく、メツもパリイも共に陥つたので、遂に償金五十億フランを出し、且エルザス(アル)とロートリンゲン(ロシ)とを割いて講和した。

四 統一の完成 この戦役中にドイツ統一の議が漸く熟したので、國王ウイ



明治四年
この年
廢藩置
縣

ウイリヤム一世の即位

新憲法の制定

原因

リヤム一世は國民多數の希望を容れ、一八七一年大本營であつたヴェルサイユ宮殿で、ドイツ皇帝の位に即き、ついでベルリンに聯邦會議を開いて聯邦の憲法を制定し、プロシヤ國王はドイツ皇帝の位を世襲することとなり、統一の事業が漸く完成した。

第八章 ロシヤトルコ戦役

一 ロシヤトルコ戦役

Turco-Russian War 1877-1878

クリミヤ戦役後もロシヤのトルコを侵略しようとする者は變らなかつた。ところがトルコ皇帝は専制政治を行ひ、マホメット教を信じてキリスト教徒を迫害し、恣に重税を課して驕奢を極めたので、バルカン半島の諸民族が相前後して叛き、國運は漸く危くなつた。ロシヤはこの機會に、イギリス・フランス・オーストリアの諸國と相議した上で、トルコに内政の改革を迫つたが、容れられなかつたので、遂に宣戦した。



この役、ロシア軍はドナウ河を渡り、勇將オスマン^{Osman Pasha}の死守してゐたプレヴナ要塞を陥れ、進んでアドリヤノーブルを占領したので、トルコは大いた驚き、急にロシアとサンニス^{San Stefano}テフノ假條約を結んだ。

オスマン
パシヤ
サンニス
テフノ
條約

イギリス・
オーストリ
ヤ兩國の抗
議

ベルリン條
約に基いた
バルカン半
島圖

ベルリン條
約の内容

●ベルリン會議 イギリスとオーストリアとは、この條約がトルコの獨立を危くするものとして反對し、頻りに戦備を修めるやうになつたので、ビスマルクは相互の間に斡旋し、列國會議をベルリンに開き、前條約に修正を加へてベルリン條約を締結させた。これによつてトルコはモンテネグロセ



ルビヤ及びブルーマニヤの獨立を認め、ブルガリヤの領地を縮小し、且トルコに朝貢する自治國とし、オーストリアにボスニア・ヘルゼゴヴィナの統治を委任し、ロシアとイギリスとに多少の土地を與へた。

第九章 近世の文明

●近世文明の特色 近世文明の二大特色はフランス大革命以來、ヨーロッパの各方面に普及せられた自由主義の發達と、物質文明の著しい進歩とである。そして自由主義發達の結果として、十九世紀の後半になつて、各國は概ね憲法を作り、國會を設け、富裕な平民は貴族や僧侶に代つて勢力を得るやうになつた。

次に科學の發達は物質文明の進歩を促した。即ち科學が各方面に應用せられ、大規模な工場經營となり、その結果、産業革命を促し、都市村落の面目を新にしたことも亦著しい新現象であつた。しかし、生産

科學の發達
とその應用

近世文明の
二大特色
自由主義と
物質文明

資本家・労働者の紛争

の利益を独占する資本家と、その命令に従つて使役せられ、極めて悲惨な境遇にあつた労働者との衝突は漸く烈しくなり、同盟罷工や工場閉鎖などが屢行はれ、これを解決する爲に社会主義が発生し、終に社会の重大問題となつた。

哲學

◎哲學と文藝 哲學の研究はドイツが最も發達し、殊にカントは從來哲學の二潮流であつた唯理派と、經驗派との學說を綜合して知識そのものの研究を遂げて、近世哲學の開祖と仰がれ、その後ヘーゲル・ショーペンハウエル(以上ドイツ人)・スペンサー(イギリス人)などの大家が出た。次に

文學



文學の方面では感情を尊重したロマンチック派の新思想が十九世紀の後半を風靡してゐて、ウォーズワース・バイロン(以上イギリス人)・ハインネ(ドイツ人)などの詩人を出した。ところが十九世紀の後半となつては自然科学の發達と共に、描寫の

カント

Capitalists

Laborers

Socialists

Hegel

Schopenhauer

Spencer

Wordsworth

Byron

Heine

精緻を尙ぶ自然主義がこれに代るやうになつた。即ちトルストイ(ロシア人)・イブセン(ノルウェー人)・ゾラ(フランス人)・ハウプトマン(ドイツ人)などは、この派の代表的な文豪であつた。

次

史學

ランケ



次にランケは歴史に科學的研究法を應用して史界を一新し、トライチケ(ドイツ人)・フリーマン(イギリス人)・ギゾーなどの大家がその後に出た。

終りに美術の方面でも、文學に於けるとはほぼ同一の傾向を有し、十九世紀の前半では題材の新奇なものを好み、形や線よりも色彩に重きを置いてゐたが、その後半になつては、自然科学の影響を受けて自然主義的色彩が濃厚となつた。シンケル(ドイツ人)・ガルニエ(フランス人)は建築の大家で、シャドー(ドイツ人)・ローダン(フランス人)は彫刻、ダヴィッド・ミレー(以上フランス人)・ターナー(イギリス人)は繪畫の巨擘として、いづれも令名噴々たるものであつた。

フルトン



(イギリス)は蒸氣力を機關車に應用して汽車を造り、後、リヴァプールとマンチエスターとの間に鐵道（開通）が布設せられて、世界に於ける鐵道工事の先鞭

をつけた。

始めて太平洋を航海したサヴァンナ

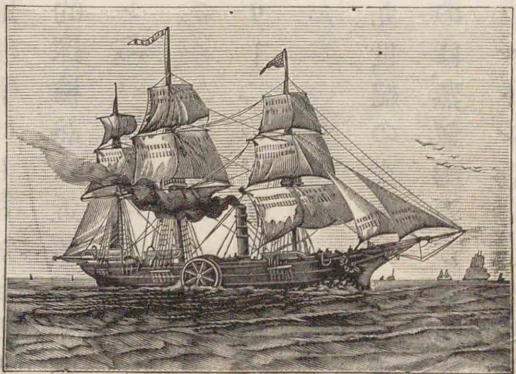
ナ號

電氣力はモース（アメリカ）によつて金線（金線）に應用せられて電信機となり、その後イギリス・フランス間に海底電信線（海底）が沈設せられた。近頃

グラハム・ベル（アメリカ）は電話機を、エヂソン（アメリカ）は蓄音機及び

電燈を、マルコニー（イタリア）は無線電信を發明

し、ついで無線電話も亦有効となつたので、最



スチヴンソン



(裏面の説明を見よ)



車汽の初最たれらせ轉運で國イニ

ドイツ國で運轉せられた最初の汽車

ドイツでは、一八三五年に始めてバヴアリヤ州のニュルンベルヒとフュルトとの間に鐵道が開通し、汽車が運轉せられることとなつた。この圖は當時の實況を寫したものである。當時使用した列車は、乗合旅行馬車の車體を三個連結したやうに構造せられてゐた。そしてこの三室内で旅客は向ひ合せて座席を占め、左右兩方面に窓を作り、その中間に昇降口を設け、荷物は屋根の上に載せ、車掌が毎列車の前方に乗つてゐるところは、全く乗合旅行馬車式である。軌道側の道路を疾走してゐる馬車馬が汽車の音響に驚かされて飛上り、夫は吠え、往來の老婆や兒童が驚異の眼で新式の交通機關を凝視してゐる有様を思ひ合せると、當時の光景がありありと眼前に浮んで來るやうである。

潜水・航空
の兩術

世界大博覽
會

世界共通事
業

新文明の利器は各地に採用せられ、汽車、汽船と相俟つて世界の交通貿易上に大變動を促した。

二十世紀になつてから、科學の應用は更に各方面に行はれ、潜水・航空の兩術は著しい發達を遂げ、中でも飛行機と飛行船とは、軍用以外に運輸交通の上に盛に使用せられるやうになつた。

⑥ **世界共通平和事業の發達** 十九世紀の中頃から交通機關の發達するに隨ひ、種々な世界共通の事業が發達した。即ち世界大博覽會は最初にロンドン一八五二に開かれてから、順次世界各國の大都に開催せられてゐる。この外萬國電信聯合一八六五、萬國郵便聯合一八七五、各種學藝上の會議、萬國平和會議などが相ついで開かれ、各國の國際的の關係は次第に親密となり、各種の事業が國際的に發達するやうになつた。中でも一八六三年ジュネーヴGenevaの規約に基いて、戦時傷病者の救護を目的として創立せられた萬國赤十字社Red Cross Societyの如きは最も世界的のものである。思ふにこ

婦人の参政権

のやうな國際的の會合は、向後益増加する傾があるから、我が國民は進んでこれに加り、世界的に人生の幸福を増進することに努めなければならぬ。

⑤ 婦人問題 フランス大革命時代人權の宣言が行はれた際に、婦人も女權の宣言を公にした。爾後世態の變遷するに隨ひ、男女の同權を主唱し、更に進んで教育・職業及び政治上の自由平等を要求するやうになつた。そしてノルウェー・スウェーデンなどの諸國では、遂に参政權を與へた。世界大戰後にはイギリス・ドイツ・ロシア・アメリカ合衆國などの諸國も、亦婦人の参政權を認めるやうになつた。

近世史摘要及び年表

二四六五	一八〇五	トランプアルガルの大戦	光格	仁宗	露人が蝦夷に寇した。前年モゴル帝國の英の保護に歸した。	二五三	一八七〇	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成。	明治	穆宗	前年東京奠都。翌年ロシアの伊犁を占領した。
二四六六	一八〇六	神聖ローマ帝國の解散	光格	仁宗	露人が蝦夷に寇した。	二五三	一八七〇	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成。	明治	穆宗	大使を歐米諸國に派遣した。香港上海間海底電線布設。
二四七二	一八二二	ナポレオン一世のロシア遠征	光格	仁宗	嘉兵衛を捕へ去つた。	二五三	一八七〇	エジソンが電燈を發明した。	明治	德宗	西南の役。イギリス女王が印度女帝となつた。
二四七三	一八三三	ライプチヒの大戦	光格	仁宗	天理教匪が亂をなした。	二五三	一八七〇	ロシヤトルコ戰役。	明治	德宗	整年アフガニスタンの保護國となつた。
二四七五	一八五五	ワシントン會議の終了	光格	仁宗	獨人シールが英人シールを征した。	二五三	一八七〇	ベルリン會議	明治	德宗	整年アフガニスタンの保護國となつた。
二四八三	一八三三	合衆國大統領モンローが教書を公にした(モンロー主義)	仁孝	宣宗	獨人シールが英人シールを征した。	二五三	一八七〇	ベルリン會議	明治	德宗	整年アフガニスタンの保護國となつた。

近世史摘要及び年表

近世期は一七八九年のフランス大革命から一八七八年のベルリン會議まで八十九年間を包み、我が光格天皇の御代の初から明治天皇の明治十一年までで、支那清朝高宗の末から徳宗の初に及んでゐる。この期の初にフランス國民は專制君主政治を破らうとして大革命を起し、一旦王政を覆した。間もなくナポレオン一世が起つて帝政を創め、次第に四方を攻めて一時全歐を風靡したが、ライプチヒとワーテルローとで大敗を蒙つてから、既往十五年間の苦心は全く水泡となつた。かうして亂後の處分を行ふ爲に開かれたウィーン會議は、革命前の舊態に復することに重きを置き、革命の爲に起つた自由主義や統一の思想を斥けたので、その決定せられた條項は各國民を満足させることが出来なかつた。そこで國民的統一の熱情は次第に増進して、終に各地に革命的紛擾を演出するやうになつた。ギリシャがトルコから獨立し、ベルギーがネーデルランドから分離し、ポーランドが數次暴動を起して、ロシアの束縛を脱しようとした。などは皆その實例である。その他ヴィクトルエマニユエル二世がイタリアを統一し、ウィリアム一世がドイツ帝國を再興したなども、亦同一の目的から出たものである。この間、イギリスは超然として大陸の紛争に關係しないで内政を勵み、且世界の各方面に植民して益、國力を増進した。アメリカ合衆國も亦南北戦争以後國運の發展を圖り、モンロー主義を變じて帝國主義を採り、ロシアは數次トルコと戦つて南侵の希望を達しようとしたが、ベルリン會議の結果、當分の計畫を中止し、専ら中央アジアの經營に従事することとなつた。

次に文藝科學の進歩發展は本期の最も特色とするところで、科學の應用も亦盛行はれ、空前の盛況を呈するやうになつた。

年代		重要事項	國史東洋史との對照		
皇紀	西紀		日本	支那	
二四九〇 (元化)	一七九〇	フランス大革命が起つた。ワシントンが第一回の大統領となつた。	光格	高宗	翌年異學の禁令發布
二四五二	一七九二	フランス共和政體の創始	光格	高宗	露艦が蝦夷に來た。前二年に朝貢した。
二四五五	一七九五	ポーランドの滅亡(第三回の分割)	光格	高宗	翌年白蓮教徒が亂をなした。
二四六四 (元化)	一八〇四	ナポレオン一世が帝位に即いた。	光格	仁宗	露使が長崎に來つて互市を乞うた。
二四六五	一八〇五	トラファルガル的大海戰	光格	仁宗	露艦が蝦夷に來た。前年に英の保護に歸した。
二四六六	一八〇六	神聖ローマ帝國の解散	光格	仁宗	露艦が蝦夷に來た。
二四七二	一八一二	ナポレオン一世のロシア遠征	光格	仁宗	嘉兵衛を捕へ去つた。
二四七三	一八一三	ライプチヒの大戦	光格	仁宗	天理教匪が亂をなした。
二四七五	一八一五	ワーテルローの大戦。ウィーン會議の終了	光格	仁宗	杉田玄白が蘭學事始を著した。
二四八三	一八二三	合衆國大統領モンローが「主義」を公にした(モンロー主義)	仁孝宣宗	仁孝宣宗	獨人シールが英人バルマを征した。
二四八六	一八二六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二四八七	一八二七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二四八八	一八二八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二四八九	一八二九	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二四九〇	一八三〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二四九一	一八三一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二四九二	一八三二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二四九三	一八三三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二四九四	一八三四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二四九五	一八三五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二四九六	一八三六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二四九七	一八三七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二四九八	一八三八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二四九九	一八三九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五〇〇	一八四〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五〇一	一八四一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五〇二	一八四二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五〇三	一八四三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五〇四	一八四四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五〇五	一八四五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五〇六	一八四六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五〇七	一八四七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五〇八	一八四八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五〇九	一八四九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五一〇	一八五〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五一一	一八五一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五一二	一八五二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五一三	一八五三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五一四	一八五四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五一五	一八五五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五一六	一八五六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五一七	一八五七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五一八	一八五八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五一九	一八五九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五二〇	一八六〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五二一	一八六一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五二二	一八六二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五二三	一八六三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五二四	一八六四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五二五	一八六五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五二六	一八六六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五二七	一八六七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五二八	一八六八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五二九	一八六九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五三〇	一八七〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五三一	一八七一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五三二	一八七二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五三三	一八七三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五三四	一八七四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五三五	一八七五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五三六	一八七六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五三七	一八七七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五三八	一八七八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五三九	一八七九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五四〇	一八八〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五四一	一八八一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五四二	一八八二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五四三	一八八三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五四四	一八八四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五四五	一八八五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五四六	一八八六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五四七	一八八七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五四八	一八八八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五四九	一八八九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五五〇	一八九〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五五一	一八九一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五五二	一八九二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五五三	一八九三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五五四	一八九四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五五五	一八九五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五五六	一八九六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五五七	一八九七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五五八	一八九八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五五九	一八九九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五六〇	一九〇〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五六一	一九〇一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五六二	一九〇二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五六三	一九〇三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五六四	一九〇四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五六五	一九〇五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五六六	一九〇六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五六七	一九〇七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五六八	一九〇八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五六九	一九〇九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五七〇	一九一〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五七一	一九一一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五七二	一九一二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五七三	一九一三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五七四	一九一四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五七五	一九一五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五七六	一九一六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五七七	一九一七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五七八	一九一八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五七九	一九一九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五八〇	一九二〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五八一	一九二一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五八二	一九二二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五八三	一九二三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五八四	一九二四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五八五	一九二五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五八六	一九二六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五八七	一九二七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五八八	一九二八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五八九	一九二九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五九〇	一九三〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。
二五九一	一九三一	トルコがギリシャの獨立を承認した	仁孝宣宗	仁孝宣宗	松平定信が歿した。
二五九二	一九三二	ナポレオン(再興)三世の即位	孝明	文宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二五九三	一九三三	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五九四	一九三四	イタリヤ王國の創建。アメリカの南北戰役が起つた	孝明	文宗	前年櫻田の變。二年サイゴンが占領せられた。
二五九五	一九三五	プロシヤオーストリア戰役	孝明	文宗	前年大政奉還。翌年朝野大變。院君の執政
二五九六	一九三六	プロシヤフランス戰役。イタリヤ王國統一の完成	明治	穆宗	前年東京寛都。翌年ロシアが伊豫を占領した。
二五九七	一九三七	パリ開城。ヴェルサイユ條約の締結。ドイツ統一の完成	明治	穆宗	大東に派遣した。香港上海間海底電線布設
二五九八	一九三八	クリミア戰役が起つた	孝明	文宗	安政の開國。後四年愛理條約が調印せられた。
二五九九	一九三九	ナポレオン(再興)三世の即位	仁孝宣宗	仁孝宣宗	翌年米の水師提督ペリーが浦賀に來た。
二六〇〇	一九四〇	ベルギーの獨立が認められた	仁孝宣宗	仁孝宣宗	大坂川口を渡した。天保山を築いた。

第五篇 最近世史

第一章 アフリカ・アジア・大洋洲に於ける 歐米諸國の經營

列強の植民
政策

● 列強の世界政策 十九世紀の後半になつて、各國に於ける人口の激増と、商工業の發展に基いた生産物の過剰と、ドイツ・イタリヤなどの諸國の民族的統一の完成と相俟つて、列強は世界政策を採り、盛に世界の各方面に領地や保護國を作り、過剰の人口を移植し、生産品を販賣しようとするやうになつた。

● アフリカの分割 アフリカは暗黒大陸として、久しく世人から顧みられなかつたが、かのリヴィングストンやスタンリーなどのナイル河の上流地方の探検によつて、その實狀が發表せられてから、列國

イギリスの
運河株券買
収

レセップス

アラビヤ
シヤの亂

は争つてこれが分奪を企てたので、エジプトやアビシニヤなどを除いた地方は、大概ヨーロッパ列國の植民地又は保護領となつた。

⑤ イギリスのエジプト及び南アフリカの經營 イギリスはエジ



プトの財政困難を極めてゐた時、エジプト太守のもつてゐたスエズ運河の株券を一手に買収し、財政の顧問となつた。ついて獨力でアラビヤの内亂を鎮め、軍隊を駐屯

させて、事實上エジプトをその保護國とした。

曩にイギリス人がアフリカの南端にあるケープ地方に移住した

ので、その地方のブール人(オランダ人の子孫)は北方の内地に入つて、トランス

ヴァールとオレンジとの兩共和國を建てた。ところがこの地方に金と

金剛石とが多量に採取せられるやうになつてからイギリス人の移住するものが俄かに増した。イギリス政府はこれ等移住民の爲に參

トランス
ヴァール戰
争

アフリカ分
割圖
モロッコ保
護權の獲得

政權を要求して拒絶せられたので、終に宣戰してこれを征服した。その後イギリスはこれ等兩國とナタル、ケープ兩植民地とを併せて、南アフリカ聯邦を作り、總督を任命してこれを統治させた。

④ フランスのアフリカ經營 フランスは自國の對岸にある

ジエリヤを占領し、その隣邦

を保護國とし、ついでサハラとそ

の南方一帶の地方とを攻略し、更

にマダガスカル島を占領して純

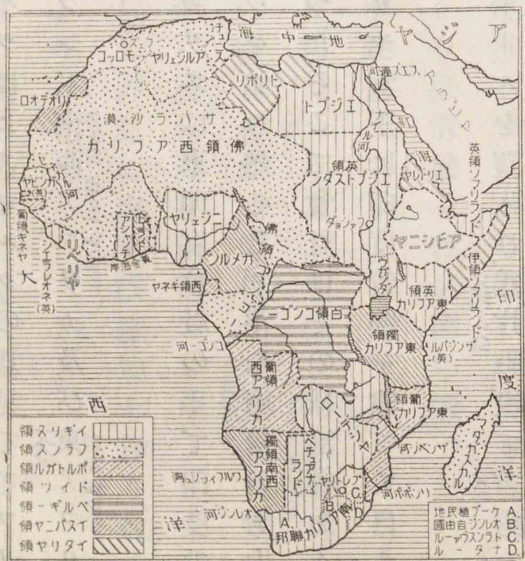
然たる屬領とした。

ついでフランスはモロッコ問題

でドイツと衝突したが、フランス

領コンゴの一部をドイツに割

いて、モロッコを保護國とした。



イギリスの
印度併有

イギリスの
南亞及び東
亞に於ける
活動

⑤ ドイツのアフリカ經營　ドイツはビスマルクの意見で、アフリカの經營に着手し、カメルン^{一八四}、トゴランド^{一八四}、南西アフリカ及び東アフリカ^{一八五}の植民地を得た。
Kamerun, Togoland, South West Africa, East Africa

⑥ イギリスのアジヤ經營　イギリスは東印度會社の手で印度の經營に着手したが、幸にもクライヴを始め、熱心な知事や總督の努力で、その大半を領有するやうになつた。そこで會社はその統治權をイギリス政府に移したので、ヴィクトリヤ女王は印度帝國を建てて自ら帝位に即いた。^{一八七}

これより先イギリスはシンガポール^{一八一}を買入れ、鴉片戰役で香港^{一八一}を取り、更に北京條約で香港の對岸にある九龍^{一八四}を得た。これからベルチスタン^{一八五}を保護國とし、バルマ^{一八五}を併せ、更に日清戰役の後の清國から威海衛^{一八六}を租借した。
Singapore, Opium War, Hong-kong, Kowloon, Baluchistan

⑦ ロシヤのアジヤ經營　ロシヤはムラヴィヨフの努力で、東部シベ

ムラヴィヨフの極東經營
ムラヴィヨフ

フランスの印度支那經營

ドイツの膠州灣租借

*歐大陸全面積の約四分の三を有する。



州を租借したが、日露戰役^{一九〇}の後に、その租借權を我が國に譲つた。

⑧ フランスとドイツ兩國のアジヤ經營　フランスはナポレオン三世時代から印度支那の經營に努め、初にサイゴン^{一八五}を陥れ、交趾支那^{一八五}を取り、カンボヂヤ^{一八七}を保護國とした。その後共和政治時代に東京^{一八七}を得、安南^{一八七}を保護國とし、日清戰役の後は遂に廣州灣^{一八九}を租借するやうになつた。次にドイツも亦膠州灣^{一八九}を租借して、青島に海軍根據地を作り、偉大な勢力を支那の各方面に扶植しようとした。

⑨ 大洋洲の分割　大洋洲に屬する諸島の中で最大なのはオース

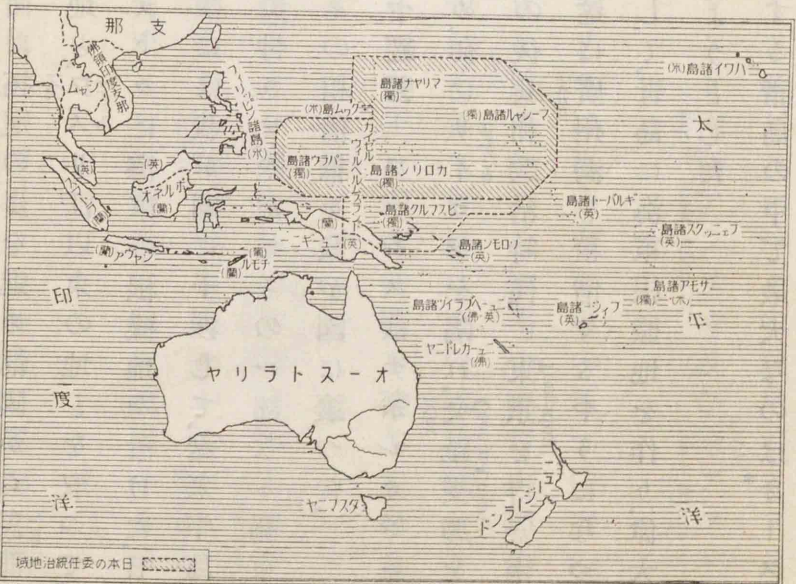
リヤの方面に拓殖の歩を進め、清國から黑龍江^{一八六}以北の地と、ウスリ江^{一八六}以東の地とを取つて、ウラヂヴオストック^{一八七}に海軍の根據地を設けた。日清戰役の後は我が國に干渉して、遼東半島を支那に還付させ、やがてその一部なる關東

大洋洲諸島の分割

イギリスの所領

大洋洲分割の図
ドイツの所領

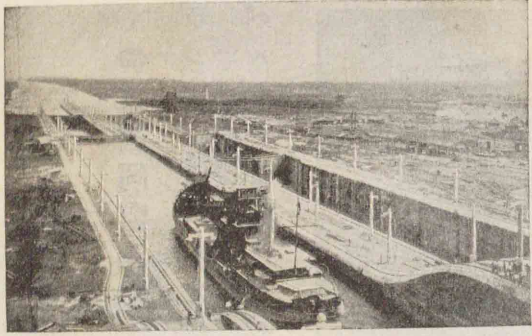
トラリヤで、十九世紀の初からイギリス人がこれを開拓したが、天産物が豊富なので、移住民が激増した。そして後にはオーストラリアの Commonwealth of Australia を組織して自治制を採用した。この外イギリスはニューゼーランド及びフジーの全島、ニューギニー及びボルネオ島の一部を領有した。ドイツはカイゼル・ウィルヘルムスランド、ビスマルク諸島、マーシャル諸島を領し、マリヤナ・カロリン・パラウの三諸島をイスパニヤから購ひ、なほサモア諸島の



フランス・オランダの所領

アメリカ合衆國の帝國主義

パナマ運河の開鑿と極東方面進出の企



一部を取つた。フランスはニューカレドニアの一部を、オランダはニューギニー及びボルネオ島の一部を領した。

⑤ アメリカ合衆國の活動
アメリカ合衆國は多年モンロー主義を唱へて來たが、國力の増進するに隨ひ、次第にその主義を變じて帝國主義を採るやうになつた。即ちイスパニヤ領

キューバ及びフィリピン諸島が叛旗を翻したのを援けてイスパニヤ軍を破り、キューバ島を保護國とし、更にポルトリコを得、フィリピン諸島を購入した。合衆國は又ハワイの革命に干涉してこれを併せ、更にサモア諸島の一部を占領し、近頃パナマ運河を開いて大西・太平洋の連絡を圖り、優勢な海軍力を以て太平洋を威壓しようとしてゐる。

第二章 十九世紀末に於けるヨーロッパの情勢

三國同盟

ヴィクトリヤ女王

二國同盟

ヴィクトリヤ女王時代の隆盛

① 三國同盟及び二國同盟

ドイツはプロシヤフランス戦役後フランスに備へる爲、オーストリア・ロシヤと三帝同盟^{一八七二}を結んでゐたが、ベルリン會議後、ロシヤの代りにイタリアを招いて一八八二年オーストリア・イタリアとの間に三國同盟を結んだ。そこで多年孤立の地位にあつたフランスは、一八九一年ロシヤと二國同盟を結んで、ドイツに對抗するやうになつた。



② イギリスの情勢

ヴィクトリヤ女王時代には保守黨のデズレリー・ソールズベリーや自由黨のグラッドストーンなどの大政治家が代る代る政黨内閣を組織して選舉法を改正し、アイルランド問題を處理し、又海外發展にも成功し、且強大な海軍を作

十九世紀後半に於けるフランス婦人の服装（一八六八年頃）



（マックス・フォン・シオン著十九世紀フランス文明史所載）

名譽の孤立

統一大成後の經營

ウィリヤム二世の抱負

チエール
チエールの
盡瘁

つた。そこで國運は隆盛になり、獨力で三國二國兩同盟に對抗するこ
とが出来たやうになつた。

③ ドイツの情勢

ドイツ帝國建設後、宰相ビスマルクは戦後の經
營に努め、一方には社會黨を抑へ、他方には社會を改良し、労働者を保
護することに腐心した。ついで農工商業を奨め、且アフリカ及び大洋
洲に植民地を作つて國力を増進した。帝の後を承けたフレデリック三
世（一八九六）の歿後にウィリヤム二世（一八九六）が即位した。帝は早くからドイツを世界的
の大國家とする抱負を有し、海陸軍の大擴張を斷行し、勤勉な國民性
を利用して殖産工業の發展を圖つたので、國力



は充實し、富強は他の諸國を凌ぐやうになつた。

④ フランスの情勢

フランスはプロシヤフ
ランス戦役後、チエール（一八七〇）を始め、歴代大統領の盡
力（一八七〇）で徐々に國力を回復した。これより先共和政

體が確立してから産業發達し、軍備が充實することとなつた。

⑤ ロシヤの情勢

アレクサンドル二世 Alexander II



つてベルリン會議で敗れ、晩年専制政治を行つて民心を失つた。その後アレクサンドル三世を経てニコラス二世が帝位に即いて熱心に政治を勵み、藏相ウイッテを用ひて財政を整理させた。帝は又極東の經營にも努めたが、我

アレクサンドル二世

が國と交戦して大敗を招いてから、國民はその政治に對して不平を抱くやうになつた。

第三章

イタリヤトルコ及びバルカン兩戰役

① ブルガリヤの獨立とオーストリアの活動

トルコでは青年トルコ黨が革命を起して立憲政治を行ひ、後、皇帝を廢立した。ブルガリヤ

Young Bulgaria

オーストリアの二州併合

原因

トリポリの割讓

マホメット五世



ヤはこの機會に獨立を宣言し、ついでオーストリアも豫て統治を委任せられてゐたヘルツェゴヴィナ、ボスニア二州の併合を公にしたが、トルコは微力であつたから、空しく恨を吞んでこれを認めた。

② イタリヤトルコ戰役

Italo-Turkish War 1911-1912

Eritriopi

イタリヤはチュニスをフランスに取られるから、トリポリの經營に努めてゐたが、トルコの國力が回復しない間に、これを領有することが得策であると考へ、トリポリの讓渡を要求した。トルコはこれを拒絶したが、戰爭に敗れたので終に屈し、その地をイタリヤに與へて講和した。

③ バルカン戰役

Balkan War 1912-1913

トルコでは新帝マホメット五世が即位したが、積弊は少しも改められなかつたので、暴動が所々に起つた。ブルガリヤ、セルビア、ギリシヤ、モンテネグロの四國はこの機に乗じ、聯合してトルコと

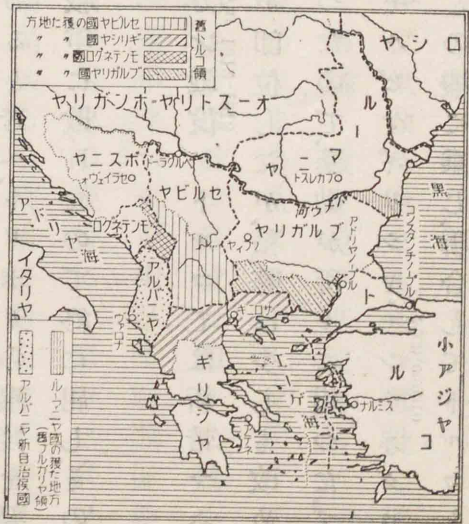
Montenegro

バルカン戦役以後に於けるバルカン半島略圖
ブカレスト
条約

戦ひ、大いにこれを破つた。ところが四國はトルコから得た土地の分配に關して衝突し、ブルガリヤは終に他の三國及びトルコ、ルーマニヤと戦を交へた。しかし、ブルガリヤは連戦連敗の末、^{一九一三}ブカレスト Bukarest 條約を結んで講和した。その結果、トルコはヨーロッパに於ける所領の大半を失ひ、その他の五國は各、その一部を分取した。

第四章 世界大戦役の勃發

●ヨーロッパ列強間に於ける國際關係の變動 三國同盟と二國同盟とは、共にヨーロッパの平和を保つべき防禦同盟であつたが、ドイツ



イギリスとドイツとの對抗

エドワード七世とその銅像
ロンドン、ウォーター・ルー・廣場にある、一九二二年七月除幕式舉行。



て屢々衝突した。

●大戦役の原因と列強の参戦 かやうにイギリスとドイツの對抗と、バルカン半島に於けるロシアとドイツとの勢力争と、一八七〇

の國運が非常に發展した爲に、却つてヨーロッパの均勢を破らうとするやうになつた。そこでイギリスは光榮ある孤立の主義を棄てて、遠くは我が國と日英同盟を^{一九〇二}結び、近くはフランス、ロシアと三國協商を約して、ドイツに對抗した。そしてロシアとドイツとの兩國は、バルカン半島内に住居してゐる自國民族を支配して、他を斥けようとしたの

オーストリヤ皇儲フランシス・ルザナンド大公



近因

オーストリヤの宣戦

列國の参戦

オーストリヤ皇帝フランシス・ジョセフ

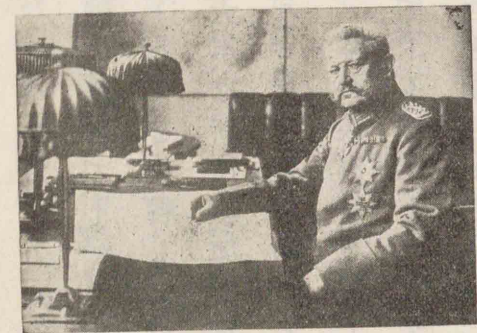


年來ドイツとフランスとの間に結ばれて解けなかつた不和反目の念とは、本役の三遠因であつた。そして豫てオーストリヤがボスニヤとヘルツェゴヴィナとを併せたことを憤つてゐたセルビヤ種の一青年が、オーストリヤの皇儲夫妻をボスニヤの首府で暗殺したことが近因となつて、兩國の間に戦争が勃發した。そこでロシヤとフランスとの兩國はセルビヤを援け、ドイツはオーストリヤに味方して、共に宣戦した。ついてイギリスはドイツの大軍がベルギーの中立を破つて侵入したことを非難してロシヤ・フランス側に與し、我が國は東亞の平和と日英同盟の誼とを重んじてドイツに宣戦し、イタリヤ、ルーマニヤ、アメリカ合衆國などは聯合側に

参加し、トルコ、ブルガリヤなどはドイツ・オーストリヤ側に味方して、ここに未曾有の大戦役を見るやうになつた。

第五章 世界大戦の経過(その一)

一 東西兩方面の戦況



マルヌの會戦
ヒンデンブルク元帥

ドイツは優勢な大軍でまづフランス軍を破り、それから東方に轉じてロシヤ軍を粉砕する豫定であつたから、その主力軍はベルギーの中立を侵してフランスに入り、一時パリを脅かした。ジョッフル將軍は機を見て攻勢に轉じ、これをマルヌ河畔に破つた。そこでドイツの名將ヒンデンブルグは從來の方針を變じ、ドイツ・オーストリヤの軍を以てポーランドに入り、首府ワルソーを陥れて東進した。

セルビヤ全土の征服

ルーマニヤの大敗

ドイツ海軍の窮状

●バルカン方面の戦況 トルコはドイツに味方してロシヤに宣戦したので、イギリス・フランスの聯合艦隊はダーダネルス海峽からトルコを攻撃したが、空しく失敗した。そしてドイツ・オーストリアの大軍は新に参加したブルガリヤ兵と策應して、北東の兩方面からセルビヤを夾み撃つて、その全土を攻取つた。^{一九一五年十月}

その後形勢を觀てゐたルーマニヤがオーストリアに宣戦したので、ドイツ・オーストリアの大軍はトルコ・ブルガリヤ軍と力を協せて、西と南とから進撃して首府ブカレストを陥れて、國土の大半を占領した。そこでイギリスとフランスとの聯合軍は僅かにサロニキを守備する有様となつた。

●ドイツ海外植民地の喪失 イギリス・フランス側の諸國は、優勢な海軍力でドイツの海運事業に大打撃を與へ、且その軍艦を軍港内に壓迫した。そこでドイツの海外植民地は全く孤立となり、そのアフ

日本の膠州灣占領

ヴェルダン要塞攻撃の由來

リカにあるものは、主としてイギリス植民地の兵に、太平洋にあるものは我が國及びイギリスの爲に占領せられた。又我が國は更に膠州灣を攻取つて、極東に於けるドイツの勢力を滅した。

第六章 世界大戦の経過(その二)

●ヴェルダン要塞の攻撃 前に述べたやうに、大戦役の戦線は東西・南の三方面で愈々延長し、殊に西部戦線の如きは、彼此共に塹壕を築いて相対抗し、純然たる要塞戦と化したので、容易に勝敗を決することが出来ないやうになつた。イギリスはこの期間を利用して、兵士の徵發及びその訓練・軍器・軍需品の製造などに全力を集中して、その成績が頗る良好であつたので、ドイツのウリヤム二世は前途を憂ひ、ヴェルダン要塞に強襲を加へ、戦線の一角を突破してパリに進出を試み、戦局の大勢を制しようとした。それ故その攻撃は猛烈を極め、屍山血

フランス軍の反撃奏功

ウェルダン要塞ヴォーの砲臺の現状

無制限潜水艇戦争の開始

アメリカ合衆國の宣戦



アメリカ合衆國は久しく中立を守つてゐたが、ドイツ人の海陸兩方面に於ける兇暴な行動を惡み、正義人道の爲に宣戦した。その後中米や南米の諸國を始め、支那、暹羅^{シヤム}なども相前後して、ドイツに宣戦したので、戦局は一變した。

河の慘狀を呈したが、要塞司令官ペタンの沈勇と、将卒の奮戦とによつて、その計畫が挫かれた。
③ドイツ潜水艇の活動　ドイツは交戦二年に互つてなほ勝敗を決することが出来ないのを遺憾とし、一方には飛行機、飛行船を飛ばして聯合側の市街に爆彈を投下し、他方には潜水艇を用ひて聯合側の軍艦や商船を撃沈した。殊に一九一七年二月以後は、無制限潜水艇戦争を開始し、人道を無視して海上に暴威を逞しくした。

レニン

ロマノフ朝の滅亡

ブレスト=リトウスク條約の締結



命を起し、ニコラス二世を廢してロマノフ朝を倒した。ついでレニンは、トロツキーなどの過激共産黨派が、ソヴェート政府を建てて政權を握るに及び、ドイツとブレスト=リトウスクに單獨講和を結んで、聯合側を脱退した。

④ロシアの革命と單獨講和　ロシアは農業國で、殖産工業がまだ發達してゐなかつたから、軍器軍需品が缺乏し、又精銳な將校を補充する途もなくなつた。その上作戦の秘密が密偵の爲にドイツに洩れて大敗を重ねたので、戦争の中止を切實に希望するやうになつた。多年專制政治の積弊を憤つてゐた労働者や農民は、この機會に兵隊と力を協せて終に革命を起し、ニコラス二世を廢してロマノフ朝を倒した。ついでレニンは、トロツキーなどの過激共産黨派が、ソヴェート政府を建てて政權を握るに及び、ドイツとブレスト=リトウスクに單獨講和を結んで、聯合側を脱退した。

第七章 世界大戦の終局

イタリヤ軍の進撃

○イタリヤ方面の戦況 イタリヤは聯合側に参加してから、オーストリア軍と戦つて敗北した。ロシア革命の後、オーストリア軍は再び攻撃を始め、一旦イタリヤの東北部を占領した。ところがイタリヤ軍は猛烈な逆撃と追撃とをこれに加へて、その軍を北イタリヤ以外に驅逐し、終に休戦條約を結ばせた。

ドイツ軍の潰敗
フョッシュ元帥

○西方に於ける聯合軍の大攻撃 ドイツは多年の戦争で兵員の不足、物資の缺乏と、士氣の沈衰、人心の動搖とを感じたので、東方から廻送した兵力を合せ、西方戦場で最後の大攻撃を決行した。その時フョッシュ元帥は聯合軍の總司令官となつて、巧に全軍を指揮統帥して奮戦したので、さすがのドイツ軍も遂に總崩れとなつて潰敗した。

○ドイツ・オーストリア兩國の革命 ドイツ軍の潰敗は各方面に多大な影響を與へ、



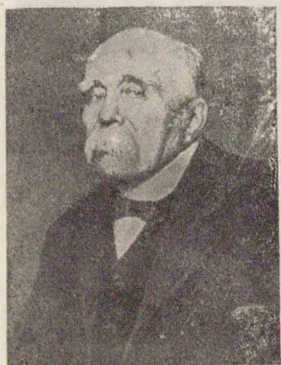
ウイリヤム二世と皇后



ルガリヤとトルコとの兩國はまづ休戦を約し、セルビヤはその國土を回復し、ついでドイツ・オーストリア兩國内には君主政治を廢して革命を斷行し、平和を回復しようとする運動が起つたので、兩國の皇帝は相ついで帝位を去り、兩國はいづれも民主的の共和國を建て、ホンガリヤも亦オーストリアから分離獨立した。

四 休戦と講和の成

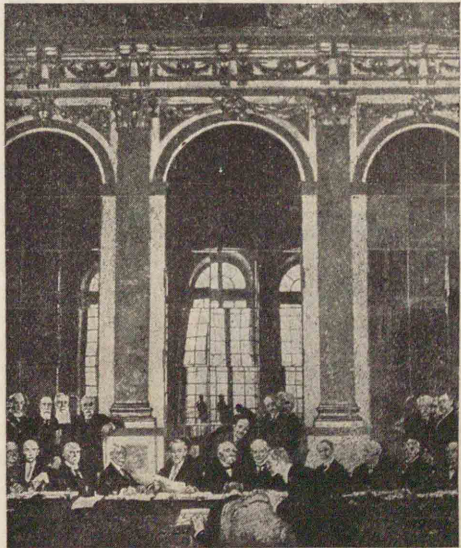
立 ドイツの新政府は内外の形勢の極めて危険に瀕したのを觀て、聯合側の提出した休戦條約を認め、やがてイギリス・フランス・イタリヤ・アメリカ合衆國及び日本の五大國以



講和會議議長クレマンソー

平和の調印の光景

下大戦に關係した諸國は、パリ一九一九年四月でドイツに對する講和條約を協定し、ついでヴェルサイユでドイツをしてこれに調印させた。そして一九一九年六月オーストリア(サンジュルマン條約)・ブルガリア(ブルガリア條約)・トルコ(セーブル條約)三國に對する講和條約も亦相次いで調印せられたので、かくして四年半に亘つた世界大戦役の結末が漸くついた。



第八章 大戦後の世界

○世界の改造と新興國 大戦後の世界は敗戦國が著しくその領土を縮小したと、同一民族が結合して獨立した國家を作つたこ

とで、從來よりも非常に變化した。

ドイツはエルザス(Alsace-Lorraine)・ロートリンゲン(Lothringen)をフランスに、西プロシヤ以下二三の地方をポーランドに割譲し、ベルギーとデนมルクとも各若干の土地を與へ、海外にあつた領土と租借地との全部を放棄した。陸海軍はその兵數を制限せられ、巨額の償金を支辨することとなつた。

オーストリアは僅かに舊領の三分の一を領有する小共和國となり、ホンガリヤは分離獨立し、その他の地方は新興の諸國に分割せられた。イタリヤは多年希望してゐたトレンチノ・トリエスト以下の地を回復し、トルコは僅かにコンスタンチノール附近の小地と、小アジア半島とを領して、その他の土地を失つた。

次に民族自決主義に基いて、新にポーランド(舊リトアニア領の一部を含む)・チェッコスロヴァキヤ(舊オーストリア領の一部を含む)・ユーゴスラヴィヤ(或はセルビア)

ドイツ

オーストリア

イタリヤ

トルコ

新興の七國

イギリスの
委任統治地
方

フランスの
委任統治地
方
我が國の委
任統治と膠
州灣租借權
の獲得

の全土並びに稱する、舊セルビア及びモンテネグロ・フィンランド(舊ロシ)・エスト
ニア(舊ロシ)・ラトヴィヤ(舊ロシ)・リトワニア(舊ロシ)などの諸國が創立せ
られた。しかし、これ等の諸國は一二を除く外は、いづれも實力に乏し
いから、國基を確立することは頗る困難である。

イギリスはエジプトを保護國とし、舊アジャトルコ領のパレスチ
ナ・メソポタミア・アフリカにあつたドイツ領東アフリカの大部分(ニケ
民地)・カメルン及びトゴランドの一部を委任統治し、南アフリカ聯邦
はドイツ領南西アフリカを、オーストラリア聯邦はドイツ領ニューギ
ニー及び赤道以南の太平洋上に於けるドイツ領の諸島(サモア島)を
委任統治し、フランスはシリヤ及びドイツ領カメルン・トゴランドの
大部を委任統治することとなつた。

我が國は赤道以北の太平洋上にあるドイツ領の諸島を委任統治
し、且ドイツが山東半島に於て有してゐた膠州灣の租借權及び鐵道

鑛山・海底電線などに對する一切の特權を得た。

② 國際聯盟とその効果 國際聯盟はパリ講和會議で合衆國大

統領ウィルソンWilsonの主唱に基いて成立し、國際間の協力によつて戰爭を
避け、世界の平和を維持することを目的としてゐる。そして五十五國
はこれに加入してゐるが、アメリカ合衆國・ロシヤなどの數國がまだ
加盟しないから、その効力も亦十分ではない。



③ イタリアとムソリニ イタリアは講和
成立後、恣にアドリヤチック海岸のフィウメを占
領したので、ユーゴスラヴィヤと紛擾を醸し
たが、結局兩國の協定で、イタリアがこれを併
せることとなつた。

その後ファシスト黨の領袖ムソリニMussoliniが首相となり、國王ヴィクトル・エ
マニエール三世を輔けて共産主義を撲滅し、議會政治に反對して獨裁

イタリアと
ムソリニ

ムソリニ

政治を斷行し、且各方面に互つて整理刷新を行ひ、熱誠に國力の回復を圖つてゐるので、その効果は大いに見るべきものがある。

トルコでは國民黨の領袖ケマル^{Kemal Pasha}パシヤが奮起してアンゴラ^{Angora}に據り、飽くまでセーヴル條約を否認してギリシヤ軍を小アジアから驅逐



した。やがてトルコは關係諸國とローザンヌ^{Lausanne}條約を結んで舊領の一部を回復した。その後國民は帝政を廢して共和政體となし、ケマルパシヤを大統領に選舉して回教教主を廢し、熱心に政治の改善と、國力の充實とに努めるや

ケマルパシヤ
共和政體の成立

うになつた。

④ドイツの賠償問題とロカルノ條約
フランス・ベルギー兩國はドイツが賠償金^{約我が六百六十億圓}を支拂はないのを怒つて、ドイツ工業の中心地であるルール^{Ruhr}地方を軍事的に占領した。イギリスとアメリカ合

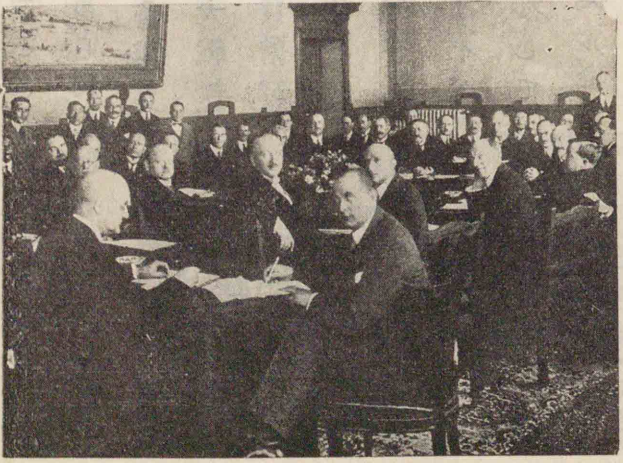
ルール問題

ロカルノ會議

ロカルノ會議の開催及びその結果

衆國とはこれを遺憾とし、フランス・イタリア・ベルギーなどの諸國と協議して、賠償金支拂法を作成し、ドイツをしてこれを採用せしめた。そこでフランス・ベルギーの聯合軍はルール地方を撤退して、これをドイツに還付したので、ヨーロッパの經濟界は漸く活氣を呈するやうになつた。

その後イギリス・フランス・ベルギー・イタリア・ドイツ・ポーランドなどの諸國はロカルノ^{Locarno}（スイス國）で會議を開いて、互に國境の安全を保障し、一切の紛争を仲裁裁判に附して、これを平和的に解決することを約束した。これによつてフランスとベルギーの兩國は、ドイツからその國境を侵略せられる



合衆國大統領
ハーゲン



であらうといふ不安の念を一掃することが出来た。そしてドイツ國も亦列國の承認を得て、正式に國際聯盟（五）に加入し、相携へてヨーロッパの復舊に努力することとなつたので、平和の曙光が始めて認められるやうになつた。

⑤ ワシントン會議と
軍備縮小問題 大戰後、

各國共に國民の負擔が

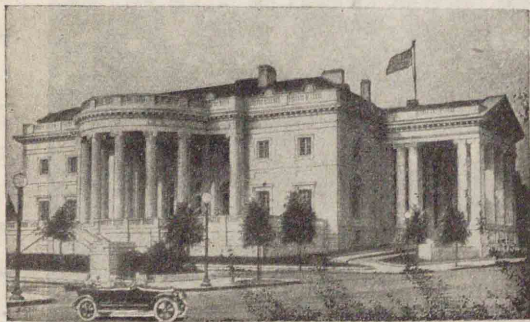
重くなつたので、これを軽減する爲に、軍備を縮小しようとする輿論が漸く高まつて來た。そこで

アメリカ合衆國の大統領ハーディングはイギリス・フランス・イタリヤ及び我が國と交渉して、

Harding

軍備制限會議をワシントン（五）に開き、更にベルギー・オランダ・ポルトガル及び支那の四國をも加

へて、太平洋及び極東問題などを協議した。その結果、イギリス・フランス・イタリヤ・アメリカ合衆國及び我が國は十個年間主力艦建造の標準比率を定め、その餘を廢棄することを約束した。しかし、陸軍兵力の制限については異論を挟むものがあつて、遂に協定を見るに至らなかつた。次にイギリス・フランス・アメリカ合衆國及び我が國は十年間



ワシントン
會議の會場

海軍縮小協
定

太平洋問題
に關する四
國協約

イギリス王
ジョージ五
世と皇后



しては、前記九國の間に條約を結んで、支那の主權獨立並びに領土の保全を尊重することを約した。

合衆國の發展

⑥ 太平洋上に於ける日本と合衆國との關係 アメリカ合衆國は土地が非常に廣くて、天然の資源が極めて豊富である。その上國民は活潑進取の氣象に富み、常に世界第一を標榜して邁進してゐる。その物質文明は殆ど頂點に達し、商工業が繁榮を極めてゐる。



Coolidge

クリッヂ大統領は就任以來、勵精治を圖り、早くから教育を刷新し、移民法を制定し、又各國と戦時の債務を協定して、その支拂を可能ならしめ、同時に、海外投資を奨めて勢力を中米・南米より、更に太平洋方面に扶殖して、永く覇を世界に稱へようとしてゐる。

翻つて我が國情を觀察して見るに、國土は狭小で物資に乏しく、學藝の進歩や商工業の發達などは、イギリスやアメリカ合衆國などに比べて遙かに遜色がある。その上に西洋の過激思想や風俗が輸入せ

合衆國大統領クリッヂ

我が國民の覺悟

られたので、思想界は漸く混亂を來たし、質實の美風は衰へて浮華の弊風が盛になつて來た。けれども今や昭和の新時代を迎へ、上に叡聖な今上陛下を戴き、下に忠君愛國の念に富んだ七千萬の大和民族を有してゐる。もしこのやうな多數の民衆が、萬世一系の帝室を中心として相結束して一國となり、正義・人道を目標として邁進したならば、我が國運を益、發展させ、且世界の列強と協力して恒久の平和を維持させることは決して困難ではない。我が國民は特にこの點に留意し、各、その抱負を遠大にしてその職務を勵み、君國に奉仕することを寸時も忘れてはならない。

最近世史摘要及び年表

最近世期は一八七八年のベルリン會議から今日まで五十年間を包み、我が明治天皇の明治十一年、支那清朝徳宗の光緒四年から今日に及んでゐる。この期の初にドイツオーストリア・イタリヤの三國同盟とフランス・ロシアの二國同盟とイギリスとは鼎立してヨーロッパの均勢を維持してゐた。ところがドイツの國力が益増進してこの均勢を破らうとしたので、イギリスは光榮ある孤立の主義を棄ててフランス及びロシアと三國協商を結んで、これに對抗することとなつた。その後イギリス・ドイツ兩國間の激烈な競争と、プロシヤ・フランス戦役以來フランス・ドイツ兩國間に醸されてゐた不和反目の念と、更にバルカン半島に於けるロシア・オーストリア兩國の利害關係の衝突によつて、未曾有の世界大戦役が勃發することとなつた。

大戦の結果世界は改造せられ、ドイツ・オーストリア及びロシア三國の帝政は倒れ、民族自決主義に基いて數多の共和國が新設せられた。しかし、いづれの國も同様に、戦後の經營と復舊事業とに對して非常に悩まされてゐる。たとひ、ロカルノの安全保障條約が成立し、ドイツが國際聯盟に加入したとしても、ヨーロッパが大戦前の状態を回復するには、なほ相當に長い年月を要することは明瞭である。

これに反してアメリカ合衆國人は、無限の富と横溢した實力とを十二分に利用して太平洋方面にも進出し、永く覇を世界に稱へようとしてゐる。随つて太平洋上に於ける我が國と、合衆國との關係は向後非常に重大で、我が國民の大いに覺悟しなければならないところである。

Table with columns for Year (年), Dynasty (代), Important Events (重要事項), and Comparison with Japanese History (國史東洋史との對照). It lists historical events from 1917 to 1927, including the Russian Revolution, WWI, and the formation of the League of Nations.

圖張擴圖版マー口

